

一、主題が含まれている題述文に関して、下記の問いに答えなさい。(15%)

- (1) 三種類の異なる品詞を述語に用いて、「題題明示の文」を示す例文を書きなさい。(5%)
- (2) 「転位陰題の文」について、「転位陰題」とはどんな意味であるかを説明してから、「転位陰題の文」を示す例文を書きなさい。(5%)
- (3) 「状況陰題の文」について、「状況陰題」とはどんな意味であるかを説明してから、「状況陰題の文」を示す例文を書きなさい。(5%)

二、分裂文に関して、下記の問いに答えなさい。(15%)

- (1) 分裂文とはどんな文を指すのか、例文を示して説明しなさい。(5%)
- (2) 分裂文の主な機能に対して説明しなさい。(5%)
- (3) 二項分裂文を表示する例文を書きなさい。(5%)

三、次の諸文例には誤用がある。誤用の箇所を書き出して、正しく書き改めなさい。(10%)

- (1) やっと先生ともお別れですね。(2%)
- (2) 道に財布がある。(2%)
- (3) 外国から高度な技術をとるためには、その国の言語を知っていたほうがいい。(2%)
- (4) このことは私の心をうたせられた。(2%)
- (5) 私は生まれてから今まで、台北で育ててきました。(2%)

四、A群とB群ではどちらが日本語らしいと感じるか。語形の面からその理由を述べよ。(10%)

A サブキ グジニア ビドゴシュチュ ブグ グダニスク

B シバス カイセリ アダナ ツズ ハシラ アマガサ

五、言語音を音声として観察するとき、その最小単位を単音と呼び、音韻として観察するときは、音素と呼ぶ。どちらも実際には子音・母音にあたるものを指す。しかし、ある子音や母音が単音として相違していても、意味の弁別に関与していなければ音素としては相違していないとみなされる。弁別的な音素であるか否かの認定には、①最小対の対立 (minimal pair contrast) の原則、②自由変異 (free variation) の原則という二つの原則が関与している。この二つの原則について実例を通して説明せよ。(10%)

六、「語」と「語彙」について述べよ。(10%)

- 七、共通語（東京方言）のアクセントにはどんな特徴があるか、そしてどんなアクセントの式と型があるのかも述べなさい。(10%)
- 八、音声・音韻上の「相補的分布」とは何のことか、日本語の音声・音韻上で相補的分布をなしている現象を挙げて説明しなさい。(10%)
- 九、日本語の副詞について論じなさい。(10%)

